

菊友会報

第110号

2023年(令和5年)1月1日

発行=菊友会

編集=広報委員会

HP

<事務局> 東京都千代田区九段北 2-2-1

千代田区立九段中等教育学校内(〒102-0073)

TEL (03)3263-2448 / FAX (03)3263-1033


 Web Site -- <https://www.kikuyukai.com/> Mail Address -- info@kikuyukai.com


年頭ご挨拶



新年おめでとうございます

菊友会理事長 伊藤ユリア(高24)



昨年もまた、コロナの第6波、第7波に見舞われ翻弄された1年でした。学校もその対応には苦慮され、至大荘行事も2020年、21年と中止が続いたなか、昨年は実施直前に感染者の急拡大により中止が決定され、準備をされていた野村統括校長はじめ先生方、そして何より生徒の皆さんも残念な思いをされて私達も胸が痛む思いでした。

菊友会としては、理事会をリモートで行う等活動を継続しつつ、至大荘懇親会は学校に足並みを揃えて中止としました。しかし秋の菊友会大会は感染者も減少し続けるなか、何とか形を変えてでも開催できる方法はないかと理事一同ぎりぎりまで模索し討議を重ねたうえで開催を実現しました。

大会には、来賓、学校関係者や多くのOB・OGが集い、その交流を通じて菊友会の役割を次世代へと繋いで行けるとの信念

のもと理事全員が結束しました。

久々に挨拶を交わし合う皆様の笑顔に心温まりました。中等9回、11回、12回、13回生合わせて10名の若い皆さんのご出席も大変嬉しい事でした。また、特別講演をいただいた高22回の元宇宙航空研究開発機構(JAXA)の柳川孝二氏からは、特に若い後輩への熱く夢の大きなメッセージを頂戴しました。

この会を通じて、人との交流がいかに貴重であるかを改めて実感し、今後のコロナの収束を心から願うところです。

この困難な時に引き続き気を緩める事なく、菊友会の為に力を尽くしていきたいと存じます。

最後になりましたが、本年が菊友会の皆様にとって、良い年になりますようお願い申し上げます。

特集 飯田橋～九段 今昔物語

⇒ 2～6ページをぜひご覧ください

野村公郎統括校長が「文部科学大臣教育者表彰」を受賞



千代田区役所での受賞報告。野村統括校長(中央) 樋口高頭千代田区長(左)と堀米孝尚教育長

2022年9月5日、明治5年の公布以来の「学制150年記念式典」で、九段中等教育学校の統括校長・野村公郎先生が、「文部科学大臣教育者表彰」を受賞されました。天皇皇后両陛下のご臨席の下、岸田文雄内閣総理大臣、細田博之衆議院議長、尾辻秀久

参議院議長、戸倉三郎最高裁判所長官、松野博一内閣官房長官がご来賓として出席。今回の受賞者は、全国で155人、限られた受賞者の1人に母校の野村先生が選ばれましたことは、学校・在校生・卒業生、その他関係者にとってとても誉高いことと思います。野村先生の名誉ある受賞に心よりお祝いを申し上げ、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

【野村先生からのコメント】

この度、「文部科学大臣教育者表彰」を受賞いたしました。これは、私をご指導くださった多くの先輩諸氏、そして、関係の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。教職歴38年となりますが、この賞に恥じぬよう、今後も学校経営に邁進してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

2023年度菊友会行事カレンダー

- * 4月19日(水)
春の菊友ゴルフ大会：石坂ゴルフ倶楽部(受付中)
 - * 5月20日(土)
菊友会評議員会：九段中等教育学校会議室、懇親会(予定)
 - * 8月26日(土)～8月27日(日)
至大荘懇親会：至大荘(8/26プレゴルフ)
 - * 10月22日(日)
菊友会大会：ホテルグランドヒル市ヶ谷 特別講演 猪俣弘司氏(高24) 元オランダ駐劄特命全権大使
 - * 10月～12月の日曜日を予定
東京校歌祭：会場未定
 - * 11月(予定)
関西菊友会総会：日時等詳細未定※今後の決定連絡は菊友会HP内の「関西菊友会」のページをご覧ください。
 - * 11月15日(水)(予定)
秋の菊友ゴルフ大会：佐倉ントリー倶楽部
- ◇高22回 卒業50+3周年記念同期会
4月22日(土)14時カナルカフェ(暫定)
- ◇高25回 卒業50周年記念同期会開催年
- ◇高50回 卒業25周年記念同期会開催年

飯田橋 ~ 九段の現在



北の丸の入り口田安門



震災被災後生まれ変わった九段会館



九段坂上から坂下を望む



いまま変わらぬ牛込見附の石垣と移転新築された富士見町教会



日本歯科大学附属病院の隣に新築されたタワーマンション



2020年7月にリニューアルオープンしたJR飯田橋駅西口駅舎



整備された九段坂公園
かつては都電の軌道だった



2011年に全面改修された九段中等教育学校九段校舎



靖国神社の大鳥居



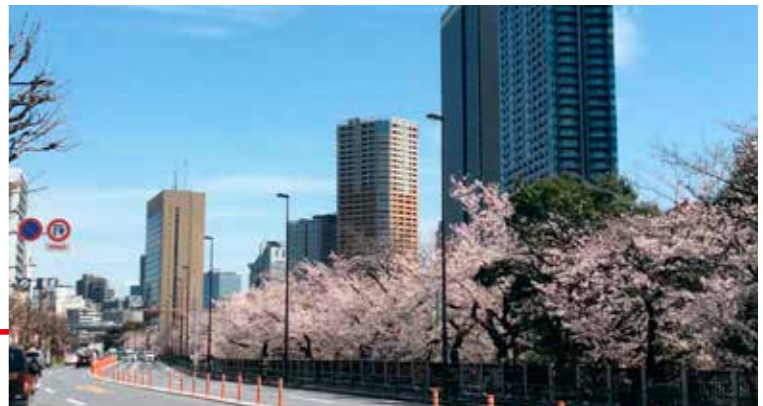
中高一貫校となり生徒が増えて新設された富士見校舎



富士見みらい館には小学校、こども園などが入る



外堀の向こうに見える東京理科大学



外堀通りから飯田橋を望む

かつては文具店、喫茶店、雀荘などが軒を連ねたあたり

高層化された日本歯科大学本館

警察病院周辺の大規模再開発で誕生したタワーマンションとオフィス

東京大神宮

プラウドタワー 富士見

日本歯科大学附属病院

富士見町教会

飯田橋 サクラテラス

新ホーム

外堀

東口

JR飯田橋駅

西口

早稲田通り

日本歯科大学

住友不動産 千代田富士見ビル

富士見みらい館 富士見小学校

九段中等

九段中等教育学校

靖国神社

靖国通り

田安門

九段会館

飯田橋～九段の思い出

70年前の九段界限

宮島 徹 (高7)

私の九段高校への入学は昭和27年(1952)、7回生ですからちょうど70年前になります。男子250人、女子100人の計350人(7クラス)が入学しました。授業料は月額300円(昭和27年)から500円(昭和28年)。ちなみにハガキ5円、封書10円の時代です。

当時、地下鉄は無く、靖国通りに都電が走っており、九段上や九段下の停車場を利用していました。牛込見附から九段高校へ向かう道沿いには途中で東京警察病院(平成20年中野へ移転)があり、生徒はそこで



JR飯田橋駅西口旧駅舎(photo by 西崎さいき)

健康診断を受けたものです。

九段高校の旧校舎は他校に比べ当時としては設備がとても良く、空襲を免れた体育館や温水設備のあるプール、個人ロッカーなどがありました。立派な講堂もあり、そこでロケットの糸川博士(中1)の講演を聞きました。ただ男子校として造られていたため、高4回生から男女共学になり2階に女子トイレが急遽作られたと聞き及びます。入学当時はまだ剣道、柔道は禁止されてい

ましたが、3年生のころやっと柔道が許され部活が始まりました。

靖国神社も様変わりです。戦後単立宗教法人となった影響で管理も行き届かず、現在のような盛況さはありませんでした。遊就館あたりには富国生命本社があり、大鳥居はなく(昭和49年再建)、大村益次郎銅像の周りは立木もなく広場でサッカーなどして楽しんだものです。春秋の例大祭の時期にはその広場にサ



九段下を走る都電、左上に九段会館の屋根が見える(photo by 鋤塚俊一郎)

ーカスや見世物小屋が出来、その拡声器の音楽や呼び込み等が聞こえて来て授業に支障をきたし、その時期は尽性園での体育授業に代わったものです。

今では考えられませんが、四谷の赤坂離宮(現在迎賓館)が国立図書館として自由に出入りでき、朝日の間などに机が並び受験勉強などしたものです。

70年も昔の話です。ただ、今でも“都の中央九段の上に堂々高きを占めて”の与謝野鉄幹作詞、山田耕筰作曲の校歌と、至大荘などで養われた九段魂と誇りは変わらないで持ち続けております。

通学路の思い出

玉木 茂 (高24)

私は高校を卒業して今年で50年になります。生まれも育ちも神田三崎町で、九段高校には徒歩で通っていました。通学路は自宅からすぐの六辻の通称三崎町本通り(靖国神社に向かう通り)から学校に向かいました。途中、「日刊工業新聞社」脇を通り、当時建設中の「ホテルグランドパレス」(開業の翌年1973年8月に金大中拉致事件で有名になりました)横の冬青木坂(くもちのきざか)を上り、「和洋九段中学・高校」を横目で見ながら校門へと向かいました。

帰りは時々、神保町経由で帰りました。ある日、九段坂上から都電に乗った時、車内でこんな事がありました。当時九段高校の制服(標準服)は紺の背広で黒ネクタイ、おまけに白い一本線の学生帽でした。たまたま車掌席付近に立っていたら、ある老婦人に声を掛けられ何か尋ねられました。私は慌てて「車掌ではありません」と答えました。立ち位置、出で立ちで車掌と思われたのでしょう。

九段高校のお隣が「靖国神社」。その先の田安門を入ると「日本武道館」。昭和39年(1964年)東京オリンピックの柔道会場でした。九段下に向かう左手前には、当時「日本住宅公団」の建物があり、昼休みに学校を抜け出し、昼食を食べに職員食堂

へ行った事も懐かしい思い出です。

九段下交差点の右角は「九段会館」。こちらは昭和初期、軍人会館として建てられたとの事です。戦後、宿泊・宴会施設となり、菊友会の会合などで何度か利用されたようです。当時は交差点を渡って角から2、3軒先のマンションの一室に「菊友会事務局」があり、卒業後、評議員として何度か出向いたことがあります。

専修大学前から駿河台下にかけて靖国通り右側は古書店が連なっていました。道路側の北向きに店を構えているのは日光で本が日焼けしてしまわないようにとの配慮だと聞いています。

神保町交差点の右角は「岩波ホール」。ミニシアターとして草分け的な存在の映画館で何度か観に立ち寄った事があります。最近閉館となったのは寂しい限りです。また裏手のさくら通りには「東洋キネマ」。こちらは大正10年(1921年)開業で1970年代に閉館となりました。小

学・中学時代に「若大将シリーズ」と「ゴジラシリーズ」の2本立てを観に行った思い出深い映画館でありました。その先のすずらん通りの「揚子江菜館」。冷やし中華の元祖として有名であり、こちらにはよく家族で行ったのを覚えています。

駿河台下交差点の「三省堂書店」。ここはあまり本を読まなかった私でもブラブラできるスポットでありました。またこの先の小川町には、スポーツ用品店の老舗「美津濃」(現ミズノ)。その後、数年を経て「ヴィクトリア」「アルペン」などが立ち並び、この界限は若者のスポーツ用品のメッカとなりました。

以上が私の「通学路の思い出」です。



旧九段高校校舎全景

◀ 九段登校双六

私達アルバム委員が自分達の卒業アルバムを制作してからちょうど50年が経ちました。

当時は高校にまで及んだ学生運動も下火となり、学園生活も平穏な時間が続いていたのですが、新しいことに挑戦する気風は残っていました。

制作にあたり、私達アルバム委員はいろいろと無理な提案を制作会社に要求したのですが、顧問を担当していた大村先生のご尽力もあってかなりの要求が通ったのを覚えています。今では考えられないことですが、クラス集合写真を校内で撮らないで靖国神社や北の丸公園で撮影したことなど、学校側の理解もあったと思います。

じつはこの時、集合写真を上の方から撮ることを提案したのですが、制作会社の担当の方は、そんなことは聞いたことがない

と言っていました。でも、自分の仕事の関係で現在の高校生の卒業写真を見る機会が多いのですが、この写真の撮り方は今では普通に行われています。

さて、制作も順調に進み、制作担当の方から最後の見開き2ページは自由な企画で作っててください、と提案されました。自由と言われても何を作ったら良いのかさっぱりわからなかったのですが、いろいろと意見を出し合い、学校内の様子は前のページの方にたくさん載っているので全く違う視点で作ってみようということになりました。

東京は地方と違って周りの景色が目まぐるしく変化します。毎日通っていた駅から学校までの風景も時代とともに変わってきます。それでは当時の風景をそのまま記録として残してみてもはどうだろうかという話でまとまりました。



高25回卒業アルバムから

九段に通う生徒は、国鉄（現・JR）の飯田橋駅からか、営団地下鉄（現・東京メトロ）の九段下駅からがほとんどでしたので、歩いている目線で順を追って撮影して載せることとなりました。しかし、写真を並べるだけでは面白味に欠けるので、まあ実際に遊ぶ人はいないだろうけど双六にしたら良いのではと話がま

谷井秀雄（高25）

とまりました。

現在の飯田橋駅ホームは急カーブを避けるため、市ヶ谷寄りに新しくなったようですが、当時の西口はホームから改札までが長い連絡橋で結ばれていて、都心の駅で階段を使わずに改札を出られる珍しい駅だったと記憶しています。駅から九段までは一本道ですが、駅前の交差点は渋谷駅前で有名なスクランブル交差点でした。途中、私の記憶に強く残っているのは、「キッチン南海」という食事処（何で南海なんだろう）と、何とんでも「かめや」という雑貨屋さんです。いろいろな雑貨を売っていて、下校時に立ち寄っている九段生もたくさんいました。

また、飯田橋駅周辺には大学も多かったのですが、現在は絶滅寸前ですが喫茶店が結構ありました。コーヒー1杯に高いお金を払って何が面白いのだろうと思っていたのですが、クラシック音楽が好きな友人と確か「ルノアール」というお店に入って、音楽を聴きながらの雰囲気は、少し大人の気分を味わった感じがしたものです。

神楽坂方面は、在学中はほとんど行ったことがありませんでした。外堀通り沿いに名前は覚えていないのですが、映画館があり、古い洋画を2本立てか3本立てで営業していて映画好きには聖地だと言われていました。

当時の九段高校には、勉強派、運動派、芸術派と大きく3グループに分かれていたと思うのですが、勉強派には大きな図書室、運動派には皇居マラソン、芸術派には飯田橋と環境が揃っていて、じつに良い場所にあったのだなあと思っていました。

◀ 卒業アルバム制作の思い出

今回の会報のテーマに合わせて、高25回卒業アルバム最終ページの「九段登校双六」の制作秘話を書いてほしいと同期の菊友会理事から依頼をいただいた。

困ったことに、私は空きスペースに漫画を描きはしたが、一番大変な双六は6組の谷井君の作品だ。この点を伝えたが、理事は相当困っている様子。仕方なく引き受けることにしたが、何しろ50年前のこと。記憶違いがあればお許しいただきたい。

私は2組だったが、訳あって5組のアルバム制作を引き受けた。受験が間近のにずいぶんと酔狂な話だが、こういう作業は嫌いではない。いや、受験勉強からの現実逃避が本音だったのかもしれない。

作業を始めると5組はほとんど知らない人ばかりでコメントを付けられないことに気づいた。おまけに受け取った35mmのベタ焼き写真はお辞辞にも誉められない（失礼！）もので、そのままでは使えなかった。

いろいろ悩んだ末に思いついたのは日本列島にベタ焼き写真を切り抜いて貼り込むアイデアだった。

北海道から始め南へと作業を進めた。使えそうな写真から貼り込んだので、南へ行くほどに写真のレベルは悪くなった。沖縄にたどり着いた時は使える写真がなかったので、自分の写真を貼り込んだ。

同じアルバム委員の谷井君は小学1年以來の幼なじみ。彼は「6組写真集 宝島の図」を作ってきた。

小さい頃から互いの家に行っては一緒に絵を描いて遊んだからだろうか、地図に写真を貼り込むアイデアは似ていたが、彼の作品には、「オベン島」、「アツタ海」、「アソウ海」、「チラチラ島」、「オ湾」、「ココホレワン湾」、「カップル島」と、彼独自の空想の世界が広がっていた。

双六の制作は各クラスの集合写真ページと、見開きの写真集ページが完成してから

脇 雅英（高25）

行ったように記憶している。

三田高校での合格発表風景をスタート地点とし、九段高校をゴールとする図柄は、地図が発想のヒントになっているのかもしれないが、なぜ双六にしようと思いついたのかはわからない。

それはさておき、あらためて見ると使われている写真のレベルは高い。同じくアルバム委員だった写真好きの阪上君の写真も入っているかもしれないが、しっかりした撮影意図を持って「取材」しなければ、揃わないだろう。

実際に双六を楽しんだことがある人はほとんどいないだろうが、一枚一枚の写真をじっくり見ると、当時の学校周辺の様子が良くわかって楽しい。

ちなみに後日5組のアルバム委員から、「代打料」としてチョコレート1枚をいただいた。

はるかなる想い

飯田橋駅舎が2020年の夏にリニューアルしたことを機に本稿を執筆するあたり、今と昔を比べる時に少なくともつぎの3つの考え方があることを前提としてお話ししていきます。

- ① 新しくなる(変わる)ことがいいこと→「すっかり変わってしまっって昔の面影ないね」
- ② 変わらないことがいいこと→「どんどん古びて行くね。昔はもっとよかったけど」
- ③ 変わらずに新しくなることがいいこと→「昔と全然変わらずどんどん綺麗になってるね」

「今昔」とは、現在と過去の時間変化の比較になりますが、間違いなく変化しているのは歳を取ってリニューアルできない私たち人間です。不老不死でいられるならずっと変わらずに、できたら新しい姿でいたいという願望が皆にあるはず。その人間の願望が実現できている過疎化しない街、つまり不老不死の街こそ素晴らしい街と言えるわけです。つまり③の考え方ですね。

そういう意味では「飯田橋～九段」エリアはまさに今も昔も街はリニューアルされながら変わらない、素晴らしいほぼ不老不死の街ということができます。つまり時間の変化に応じてリニューアルできずに変わっているのは我々人間だけ。

昔を振り返るにあたり、わかりやすいのが九段高校の前身の市立一中時代に作られた校歌です。それは僕らの校歌でもあります。その歌詞は、書かれた時代を伝承しています。作詞者・与謝野鉄幹(寛)が見て感じた九段界隈は校歌の情景描写から読み

取れます。(1番)都の中央 九段の上に 堂々高きを占めて

(2番)東に見渡す青海長く 西には霊峰富士の 白雪遠く光り みどりを連ぬる 箱根足柄 (九段高校・校歌より抜粋)

まさにこの情景は僕らの時代にも変わらず、今も変わっていないはず。ちょっとビルが立ち並びましたが。それは街の成長を意味しています。

僕が高校3年生の時に九段高校に隣接する靖国神社の大鳥居が再建されました。高さ日本一の大鳥居です。その姿は今も変わらず、大村益次郎像も変わっていません。

1964年に開館した日本武道館も変わらない姿です。ただ1985年、爆風スランプの「大きな玉ねぎの下で」リリース以降は九段高卒業生にはより哀愁を持って受け入れられたと共に新しい学びもありました。「玉ねぎって何？」と。

まさに玉ねぎは日本武道館の屋根の上の擬宝珠(ぎぼうし)を示し、仏教の「宝珠」に似せたという説がありますが、別名が「葱台(そうだい)」、ということは玉ねぎで正しいようです。

高校2年生の1973年に、後の金大中韓国第15代大統領(在職1998～2003年)の拉致事件が「ホテル・グランドパレス」で起こりました。このホテルは2021年の6月に残念ながら営業を中止しています。

九段高校から飯田橋駅に向かう富士見町にある日本歯科大学は改築され、まだ同じ場所にあります。整形外科

や脳外科の技術の高さで有名な東京警察病院は2008年に中野に移転しました。この地域から引越した非常に珍しいケースです。

最後に、このエリアには学校も多く暁星、白百合、和洋九段、二松学舎、法政大学、東京理科大学など変わらない学校が多いなか、僕らが通っていた都立九段高校は、2006年に千代田区立九段中等教育学校と変わりました。しかし、母校としての歴史は「菊友会活動」等で継続されています。

僕の「飯田橋～九段今昔物語」いかがだったでしょうか。昔の懐かしい情景を思い出していただけたら幸いです。～はるかなる想い～大切にですね。

この文章を書いている時に、サッカー部のチームメイト、同期の松下三四郎氏の訃報が入りました。～はるかなる友への想い～と題して僕のnoteにも今昔物語を書きました。内容は一部重複しますがぜひそちらもご覧ください。



note QRコード



日本武道館の「大きな玉ねぎ」ヘッド

思い出のお店

私の高校時代は、今から40年以上前、1980年4月から1983年3月までの期間です。だいぶ前なので、思い出のお店はどこだったろうと思いつくまま書きました。

1店目 萬六酒店(九段教会の近く。今もあります) このお店は酒屋で、部活(水泳部)の帰りにほぼ毎日寄っていました。もちろん飲酒するわけもなく、そこではジュースやちょっとしたお菓子、アイス等を買っていて、部の仲間はほとんどアイスを食べていました。何故か上級生が下級生におごってあげるという伝統がありました。今から思えば少ない小遣いなのにどうしてそんなことができていたのか不思議でなりません。その日の練習の振り返りや水泳理論を話題にするでもなく、ゆるい雰囲気の中で、他愛のない話で静かに盛り上がっていた記憶があります。その時間が明日への活力になっていたのかもしれない。

2店目 ファミリー(学校と飯田橋駅を

結ぶ坂の中腹を東にちょっと折れたところにありました) このお店は言わずと知れたカレーの名店。当時の男子九段生であれば1度は行ったことがあるだろうというお店です。私のお昼ごはんはお弁当だったので、外食はめったにしませんでしたが、朝練で早弁してしまい、お昼に空腹になると利用していました。串カツに生卵をトッピングしたカレーが一番人気だったようでしたが、私はウインナーをトッピングしたドライカレーが好みでした。体調が今一つだったある日のこと、店主から「具合悪いの？」と聞かれ、「はい、ちょっと」と答えると、ドライカレーに付いてくるスープにネギを多めに入れてくれたのを覚えています。それが効いたのか体調ももどり、部活に参加できました。練習サボれると思っていたので少々残念な思いと店主への感謝が入り混じっていた記憶があります。

3店目 天六(さきほどの坂から東京大

神宮に向かう途中の小路にありました。今はありません) このお店は、お好み焼き屋さんで、部の女子先輩に連れて行ってもらって以来、在学中、卒業してからも閉店するまで通いました。大ファンでした。ほぼ民家のような外観で店内も4卓くらいの小さなお店でしたが、割烹着の女将さんが接客係で、高校生、大学生でも気持ちよく接してくれて、気の置けない仲間と楽しいひと時を過ごせました。私のお気に入り、納豆天とひき肉野菜天で、納豆天は熱で温まった納豆がくせになる美味しさでした。

以上3店が私にとって思い出深いお店です。卒業生の皆さんのなかで、懐かしく思い出していた方がいらっし



イメージ

やれば、幸いです。

石田修一 (高35)

菊友会大会を3年ぶりに開催

10月16日、令和4年度菊友会大会を神田錦町の学士会館で開催。

伊藤ユリア理事長（高24）の開催挨拶、原田忠禮会長（高21）の主催者挨拶に続き、ご来賓の千代田区教育長の堀米孝尚様、九段中等教育学校統括校長の野村公郎様、同校P.A.副会長の服部英樹様からご挨拶をいただいで開会、総出席者80名、うち菊友会員72名、来賓8名でした。

第1部は、元宇宙航空研究開発機構（JAXA）の柳川孝二氏（高22）による特別講演。「宇宙の扉を開こう～球は転々宇宙間～」と題して、宇宙の誕生、H-1ロケットエンジン、国際宇宙ステーションの宇宙飛行士の話、そして今後の宇宙基本計画などを分かり易くご説明いただきました。

第2部の懇親会は、赤司久雄顧問（高15）の乾杯で開宴。今年はコロナ禍に配慮して、乾杯以外はアルコール抜きの和食重に。

最年長の高4回の高野光正氏、小林昌彦氏、大井基臣氏にご登壇いただき、小林氏からは、FMヨコハマのラジオ番組「グラウンドシニアサロン」のお話がありました。

また、3年ぶりの開催でしたので、中等11～13回の新クラス委員を紹介し、11回の沼田深匡君から代表挨拶がありました。

懇親会の締めでは、コロナ禍に配慮し校歌・至大荘歌は心唱し、山崎幹彦副会長（高21）の閉会の挨拶で幕となりました。

（柳川広明・高24）

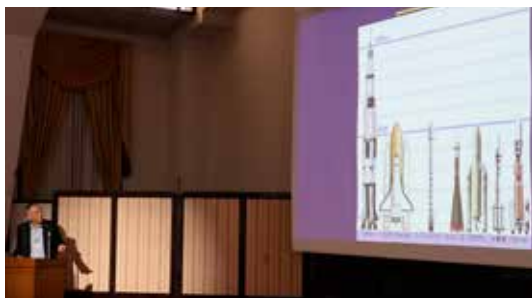
高3同期会(菊朋会)開催(11月8日)

有楽町の糖業会館地下1階「綴」にて16名の参加を得て3年ぶりに開催。各人の近況報告等で盛り上がり、新年度の開催も決めました。（菊朋会幹事 中川 繁）

菊友会ホームページの個人情報取扱い改訂～パスワード管理の会員ページを新設～

菊友会ホームページ（HP）では、個人情報漏洩防止のため新しい取組みを始めます。いままでは、①逝去者情報、②教員異動情報、③連絡先不明会員情報を会報とHPに掲載してきましたが、HPは公開されており誰でも閲覧できる状態でした。

つきましては、2023年1月よりHP上の



秋の菊友ゴルフ大会(11月16日)

晩秋の好天の下、千葉県佐倉カントリークラブにて3年ぶりの開催。高7回から高32回までの4組15名と例年よりやや少なめだったが、それが却って参加者の懇親を深めた。新ペリア方式の接戦を制したのは高19回の武田雅利氏。次回（4月19日、受付中）はより多くの皆様の参加を期待！（幹事：伊藤洋子・高24 / 百束英二・高25）



みんな、来たれ！

お試し企画 尽性園桜まつり

3月26日（日）に新企画を開催！当日は、皆様に尽性園を貸切開放し、ピクニックを楽しむような企画を考えています。詳細は決まり次第、菊友会ホームページでご案内します。ぜひ、ご家族、ご友人とお越しください。

（中井健一・高27、菊友会副理事長）

高24・6組 第11回クラス会(11月18日)

コロナ禍でなかなかクラス会を開くことができませんでしたが、要望もあって5年ぶりに開催しました。2年程前に健康を害された片瓜先生のご負担を考慮し、ご自宅近くの「溝の口」を会場にしました。当日は元気になられた片瓜先生をはじめ同級生14名が集まりました。なかには十数年ぶりの再会もあり、コロナ禍での不自由な生活を忘れ、旧交を温めることができました。

（玉木 茂）



3年ぶりに九段祭開催

9月17～18日、3年ぶりの有観客による九段祭が開催されました。残念ながら鑑賞できたのは関係者・保護者のみでしたが、校内装飾は創意工夫が凝らされ、展示・上演作品も多岐にわたっていました。様々な制限がある中、生徒たちの熱気、笑顔で大変賑やかでした。

（佐々木美和・高44、事務局）



個人情報、パスワード（PW）を設定した会員専用ページに移行します。主なポイントを簡単にご説明します。

- ① 会報のバックナンバーはPW設定の会員専用ページに移行
- ② ①とは別に、会報最新号と直近5年分のバックナンバーは個人情報にマスクして公開ページに掲載（現行通り）
- ③ 現在閲覧できない状態の逝去者情報は、

- PW設定の会員専用ページに再掲載
- ④ 教員異動情報は、事前に了解を得た教員のみ会報、HP共に掲載
- ⑤ 連絡先不明会員情報はPW設定の会員専用ページに掲載。

会員専用ページのPW：

会員外に漏洩のないよう、くれぐれもご注意をお願いいたします。

（情報委員長 中井健一・高27）

逝去

会員専用ページでの掲出とします。

法人九段だより

昨年、生徒に九段伝統の至大荘行事を経験してほしいとの強い思いで、春先から3年ぶりの至大荘開寮準備を学校とともに進めていました。しかし、あと4日で開始という段階で、参加予定者からコロナ陽性が2桁数で確認されたことによって中止となりました。これで中等14～16回までの3年間の生徒は、至大荘経験なしに卒業することになりとても残念です。今年こそ、至大荘に元気な九段生の姿が戻ることを願っています。

一方、尽性園は受入れ体制を整え、合宿利用も始まってほぼコロナ前状況に戻ってきました。

話は変わり、昨年11月6日(日)に稲城市の防災訓練が、矢野口の多摩川緑地公園と尽性園体育館を使って、市民など1,400名が参加し実

施されました。年1回実施の重要イベントで、尽性園が会場となったのは初めてです。今回、高橋勝浩稲城市長、田中誠一稲城消防長以下が尽性園を視察、合宿用宿泊施設でもある尽性園の設備の充実ぶりに感嘆されていました。

メイン会場の緑地公園にはドクターヘリも飛来、法人九段の事務局メンバー全員で救急車からヘリへの患者移送を確認、ドクターヘリの指定ランデブーポイントである尽性園サッカー場での対応をしっかりと学びました。(法人九段事務局長 中井健一・高27)



理事会だより

定例の理事会は毎月第2金曜日に母校にて開催。2022年6月から11月の各月の報告です。至大荘懇親会や菊友会大会など、行事の実施計画や中止決定、会報やホームページの運用検討など、毎回活発な議論がなされています。当会活動にご理解を深めていただければ幸いです。

- 2022年6月度(6/10開催)●
【承認事項】①100周年検討委員選出 ②6/29伝統継承HRの参加理事選出
【報告事項】5/27野村統括校長との面談、A)菊友会が学校に協力できることB)菊友会大会C)百周年記念品D)1年生の会社訪問などについて

- 2022年7月度(7/8開催)●
【報告事項】①島田副校長と面談、至大荘学校行事は実施予定②至大荘

懇親会A)リピーターに7/1案内送付済B)8月理事会で実施最終確認③菊友会大会は予定通り開催の方向、9月案内状送付④1年生の訪問企業をHP上で募集、学校に計6社を紹介

- 2022年8月度(8/5Web開催)●
【報告事項】①至大荘懇親会中止決定、7/26申込者に書面で中止連絡送付②菊友会大会は感染状況精査し9/9理事会で判断、9/12リピーター

事務局からのお知らせ

衣替えの季節、生徒さんが校章やYシャツ用のアイロンプリント校章を購入しにやってきます。それが夏は早く冬は遅くなる印象です。地球温暖化をこんなところで実感しています。

感染防止のためいつも窓を少し開けていますので、放課後の生徒さんたちの談笑が耳に入り和やかな気分になる事務局です。今年こそ、同期会、クラス会、OB/OG会のお手伝いをさせていただきますように。なお、ご住所を変更された場合は、事務局へのお知らせをお忘れなくお願いいたします。

◆開室日・時間：毎週火・金曜日11時～16時半(コロナ感染拡大が収束するまで) ◆年始開室：1月10日(火)

◆事務局休業日：2月3日(金)・2月7日(火)(適性検査等で入校できないため)

状況により変更がある場合は、ホームページに掲載いたしますのでご確認ください。

Tel : 03-3263-2448 (時間外は留守電に用件をお残してください)
Fax : 03-3263-1033 / 〆 info@kikuyukai.com (24時間受付)

維持会費納入のお願い

菊友会の活動は、会員の皆様からの維持会費により運営されています。菊友会は九段校の同窓会で、九段を卒業すると同時に菊友会会員となります。「在校生の支援を進めながら九段の歴史と伝統を次世代へと継承して

いく」という、この会の趣旨をご理解いただき、ぜひ会費納入をお願いします。

また、転居の際は必ず事務局に新住所をご連絡下さるようお願いいたします。(会計委員長 鈴木康雄・高24)

2022年度維持会費 (2022年4月～2023年3月)

中学1回～高校1回～中等8回 3,000円
中等9回～中等13回(減額期間) 1,000円

●郵便振替(現金支払いの場合は1件110円の手数料をご負担ください。通帳・キャッシュカード利用の場合は発生しません)

※住所・氏名・電話番号・卒業回・個人コード(会報封筒に印字されている番号)をご記入願います。

●銀行振込(振込手数料をご負担ください)

三菱UFJ銀行 神保町支店 普通口座:0691551
みずほ銀行 九段支店 普通口座:1453238
三井住友銀行 神保町支店 普通口座:2111680
りそな銀行 九段支店 普通口座:1413234
ゆうちょ銀行 O一九店(ゼロイチキュー店) 当座:0504525

※口座名義はすべて菊友会です。銀行から納入する場合、個人コードと振込人名を入れてください。

に開催又は中止案内を送付③東京校歌祭は中止

●2022年9月度(9/9開催)●

【承認事項】HPでの個人情報取扱ルール【報告事項】①菊友会100周年記念品への学校側希望報告、選定と予算検討に入る②6年生への菊友会入会説明会への参加理事を決定③各界で活躍のOBによる講座につき具体的に検討開始④菊友会大会開催決定⑤九段祭は保護者のみ入校可となる

●2022年10月度(10/14開催)●

【報告事項】①9/21、6年生への菊友会入会説明会実施、ほぼ全員入会登録②学校より生徒へのキャリア講座

の依頼あり③菊友会大会A)案内218通、リマインドレター53通送付B)感染対策上の変更点:懇親会は和食/アルコール類非提供/抽選会中止

●2022年11月度(11/11開催)●

【報告事項】①10/22、6年生保護者進路説明会の後、理事長より菊友会入金納付のお願いを実施②菊友会大会で柳川氏(高22)、福田氏(高31)に生徒へのキャリア講座の講師を依頼、快諾③野村統括校長より2024年の九段100周年記念式典準備委員会に菊友会参加要請あり了承<会計報告>維持会費納入状況:4,905,000円<昨年5,043,000円>

寄稿のお願い 次回締切りは5月12日(金)

次回菊友会報111号に原稿をお寄せください。同期会・クラス会・OB/OG会開催の楽しい報告や母校の思い出など、250字程度で事務局までメールまたは郵送してください。中等卒業の若い方々の投稿大歓迎です。

編集後記

感染対策に配慮しながら3年ぶりに開催された秋の菊友会大会。私は新米理事ながら、その記念すべき大会の司会進行役を仰せつかりました。そこでご出席の多くの先輩の皆様へ接し、また数々のお話をお聞きして、あらためて母校九段の素晴らしさに触れた気がいたしました。

さて、今号の特集は「飯田橋～九段今昔物語」です。編集作業に苦勞するほどいいお話が多数集まりました。嬉しい悲鳴

です。ご寄稿くださった皆様には、心より御礼申し上げます。

この地域には会員の皆様それぞれに青春の思い出がおりのことと思います。今号をお読みいただき、もし懐かしく思っていたら、どうぞ思い出を訪ねて散策してみませんか。その変貌ぶりにはきっと驚かされるはず。でも、変わらないところもあって、見つけるとほっこりもしますけど。ぜひお出かけください。(伊藤直司・高27)